

2018年2月

第89号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

「囲碁・将棋」に国民栄誉賞

いま、囲碁・将棋界が沸いている。

将棋界の羽生善治氏(47)が昨年12月竜王戦で勝利し「永世竜王」の資格を獲得、史上初の「永世七冠」を成し遂げた。(将棋の永世称号のある竜王、名人、王位、王座、棋王、王将、棋聖の7大タイトル)

また、囲碁界では井山裕太氏(28)が昨年10月の名人戦で名人位を奪還、囲碁の7大タイトル(棋聖、名人、本因坊、王座、天元、碁聖、十段)を同時制覇する全7冠に復帰した。2度の全7冠は囲碁・将棋界を通じて初の快挙である。この両名の活躍に対して政府は「歴史に刻まれる偉業を達成し、国民に夢と感動を、社会に明るい希望を与えた」として2月13日に国民栄誉賞を同時授与することに決定した。

国民栄誉賞は1977年に創設され芸能や文化、スポーツなどの分野で功績を上げた24の個人・団体に贈られている。

羽生さんは1970年埼玉県所沢市生まれ。80年に史上3人目の中学生プロとなり、19歳で初タイトルの「竜王」を獲得。26歳で史上初の7冠となった。将棋界を代表する大山康晴さんは通算勝利数1433勝(歴代一位)・タイトル通算80期を獲得しているが、羽生さんはタイトル通算99期(歴代一位)となっており通算勝利数1300勝は44歳1ヶ月で達成している。強さの秘密を「人と違う発想、考え方が出来るかを大切にしている」と述べ、当面の目標を「公式戦1400勝を成し遂げたい」としている。

井山さんは1989年大阪府東大阪市生まれ。12歳でプロ初段。20歳4ヶ月で史上最年少「名人」位を獲得。

現在、囲碁世界一を争う「LG杯」(韓国新聞社主催)準決勝で11月に世界最強と見られていた中国の柯潔九段を破り、2月5日からの決勝三番勝負、中国の謝爾豪五段と世界一をかけての対戦が注目される。井山さんはおとなしい印象ながら常に高みを目指し「対局に負けた時こそ、しっかり頭を下げる」とあくまで謙虚な姿勢を貫く好青年だ。

囲碁は古代中国の戦争占いがゲーム化、将棋は古代インドの戦争が盤上ゲームに発展したものとされている。囲碁は「地取り」将棋は「王様を取る」ゲームだ。将棋は子供の頃お祭りの夜店で「賭け詰将棋」などもあり落語の縁台将棋で熊さん・八つぁんなど広く庶民の間で流行した。囲碁は百田尚樹の「幻庵」にも登場するが、江戸時代、碁打ちを職業とする棋士たちは殿様の御前で命をかけた天覧囲碁を争った。その後、将棋も囲碁も日本文化として開花した。

いま、将棋・囲碁界は「ねんりんピック」の競技種目にもなっており、羽生・井山さんの受賞や昨年の藤井聡太4段の大活躍もあり一大ブームに沸いている。

「人間圧」がリーダーの条件



元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

ゆとり経営

輝いて生き生きしている会社を観ると、経営者はじめ全員が「我が社はみんなの会社」「全人間の会社」という意識を持っている。そして、社会正義に基づいているか、顧客中心主義か、あるいは打算と計算、取引だけで生きているのではないかと、いつも自分たちを揺さぶって、良き方向へ脱皮する力を持っているように思う。

その上で、ひじょうにシリアス(真面目)でファン(おもしろい)な個性の人を大切にしているようだ。別の言葉でいえば、経営の意義と個性を感じる会社がいいのではないだろうか。

またわたしは経営者、リーダーは、知識をたくさんもっているよりも、基礎学力、基礎体力がしっかりしていて、基礎教養を身につけて、時代の変化を感じる人がふさわしいのではないかと考えている。

私の独特の表現をすれば、それは、「人間の圧」、「知識の圧」「温かさの圧」のある人ということになる。

まとめていえば「人間圧」のある人であり、哲学があり、ビジョンがあり、夢があり、知恵や考え方、理念を濁らせない素敵な人物像を持っていることが、基本ではないだろうか。

ゆとりのある経営とのろい経営とは違う。顧客本位の価値提案と一人よがりの提案とは異なる。この違いがわかっている経営者が、どれだけいるか。内心忸怩たる念いの人はずいぶんいるのではないだろうか。

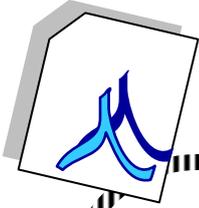
では、人間圧をつくるにはどうしたらいいか。ふだんの学ぶ力を強くすること、人の話を耳先でなく脳細胞で聴くこと、口先でしゃべらず言葉を選び、考え方に高い水準を保つ努力をすることが必要であろう。それが人を引きつけ、新緑のように爽やかで計りしれない魅力を感じさせるのだ。

近年、几帳面で誠実な人が減ったようだ。筆無精は怠け者ということだし、几帳面さがないのは一事が万事そうであろうと思われるし、誠実さを欠くのは、計算づくで人とつき合っていることの表れではないか。

そうした取引人間を踏み越えていく経営が求められていると思う。

いま客が群がり、慕ってくる企業には、そんな人間圧の魅力をもった経営者の姿を観ることができる。

(「人を惹きつける経営」より)



大隈 重信 (日本の武士・内閣総理大臣)

- | | |
|--------------|--|
| 1838年2月16日 | 現佐賀市水ヶ江に佐賀藩士の大隈信保・三井子夫妻の長男として生まれる。 |
| 1845年 | 藩校弘道館に入学。葉隠に基づく儒教教育を受ける。 |
| 1855年 | 尊皇派の「義祭同盟」参加、1856年佐賀藩蘭学寮に転ず。 |
| 1861年 | 蘭学寮を合併した弘道館教授に着任。蘭学を講じた。 |
| 1865年 | 佐賀藩校英学塾「致遠館」で教頭格として指導に当たった。また、京都や長崎に往来し尊皇派として活動する。 |
| 1867年(慶応3年) | 将軍徳川慶喜に大政奉還を勧めるため脱藩し京都へ赴いたが捕縛の上佐賀へ送還される。 |
| 1868年(明治元年) | 明治維新後、徴士参与職、外国事務局判事に任ぜられた。 |
| 1869年 | 会計官副知事を兼務。高輪談判処理や新貨条例の制定に携わった。 |
| 1870年 | 参議。その後参議兼大蔵卿など要職を務める。 |
| 1888年(明治21年) | 外務大臣就任。 |
| 1898年(明治31年) | 板垣退助らと憲政党結成。6月30日日本初の政党内閣を組閣。内閣総理大臣となる。 |
| 1907年(明治40年) | 早稲田大学総長就任。 |
| 1914年(大正3年) | 76歳で2度目の内閣総理大臣となる。 |
| 1922年(大正11年) | 1月10日胆石症のため死去。享年83歳。国葬、30万人の一般市民参列。従一位、大勲位菊花賞頸飾。 |

オススメの BOOK



『おもかげ』

浅田 次郎著 毎日新聞出版

物語は主人公(竹脇正一)が定年退職の送別会を終え、花束を抱え帰路の電車内で倒れ病院の集中治療室に運ばれたところから始まる。

看病にやって来る旧友や娘婿や妻。そして出会いたかった人など人々の面影を追う。悲惨な過去を背負いながらも、心優しく励ましあい生きる勇気を与えてくれる。竹脇正一の出生は謎に包まれたままだ。それを、まるで推理小説のようにあっと驚く結末に導いてくれる。

ストーリーの構成に新鮮なものを感じず。是非一読を……。

セルフメディケーション税制とは…



確定申告をすることでメリットのある「医療費控除」ですが、昨年1月から「セルフメディケーション税制」が導入されました。背景には高齢化が進み、医療費が高騰、日本の医療保険制度の存続が危ぶまれている状況があります。そこで、日頃から自分の健康状態や生活習慣に配慮し、定期的に健康診断や予防接種を受け、軽い症状であれば市販薬をうまく活用するなど、自分の健康を自分で管理している人を応援しようと始まった税制です。2021年12月31日までの制度で、今回の確定申告が初めての適用となります。

セルフメディケーション税制を受けるためには、医療機関が定めた健康診断、予防検診などを受け、スイッチOTC医薬品（医師の処方が必要でなかった医療用医薬品を薬局で購入できるように転用したもの※具体的な対象医薬品は厚労省のサイトに掲載）を購入した時に限られます。そして、節税額は12,000円を超えた場合、その超えた額が所得控除されます。従来の医療費控除同様、生計が同じ家族の分を合算して申告できますが、対象商品の購入以外の費用（通院や交通費など）は含まれないので、幅広く医療費の自己負担分が対象となる従来

の医療費控除に比べると範囲は狭くなります。しかも、従来の医療費控除とは併用できず、どちらかを選ぶことになります。

	医療費控除	セルフメディケーション税制
対象	治療または療養に必要な医薬品・服薬補助ゼリーなどの製品、治療費、交通費など	スイッチOTC医薬品(特定成分を含む市販薬)
対象金額	実際に支払った医療費の合計額-保険金などで補てんされる金額-10万円(もしくは総所得の5%のいずれか低い金額)	スイッチOTC医薬品の購入費用1万2千円から
上限額	200万円	8万8千円
控除を受ける為に必要な取組	特になし	特定健康診査、予防接種、定期健康診断、健康診査、がん検診 ※いずれか

対象になる薬には、箱や値札に「税・控除対象」というマークがついていたり、購入時のレシートに●や★などの目印がついていたりしますので注意して見てみましょう。

セルフメディケーションは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と世界保健機構（WHO）が定義しています。日常生活において自分で判断できる程度の軽い症状は薬局などで購入できるOTC医薬品を使って手当てすることを心がけましょう。

張本智和選手



伊藤美誠選手



【編集後記】

1月21日卓球全日本選手権が行われた。男子決勝は優勝経験9回のベテラン水谷隼選手と中学生張本智和選手(14)の対決、張本選手が序盤から激しい責めで史上最年少チャンピオンとなった。

女子は昨年優勝の平野美宇選手(17)と伊藤美誠選手(17)の同年対決。伊藤選手が成長著しく同年対決を制した。

今回の大会は優勝者がいずれも10代とヤングの活躍が目立つ。東京オリンピックを控え若手の台頭は喜ばしいことだ。更なる精進と成長と活躍を期待したい。